



日本癌病態治療研究会を 主催するにあたって

第14回

札幌医科大学医学部 内科学第四講座
新津 洋司郎

この度第14回日本癌病態治療研究会を札幌において開催させていただくことになり大変光栄に存じております。

従来本邦での癌研究は基礎と外科治療に関するものが主流となり、様々な成果を上げてきたことは衆目の一致しているところがあります。しかし最近になって、いくつかの固形癌に対しては薬物療法もその実効性が確認できるようになり、内科医が癌の臨床に積極的に携わるようになってきました。つまり癌を征圧するため、基礎学者、外科医、内科医がまさに集学的に係わりを持つようになってきました。

内科医である私に本会の主催をするよう御下命いただいたのは恐らくこのような時代背景があるからと理解しております。

従いましてシンポジウムには外科系のテーマとして“肝胆腫瘍の最新治療”を、内科系のテーマとして“分子標的治療とchemoprevention”を、基礎系のテーマとして“癌免疫療法の最前線”を取り上げさせていただきました。何れも癌の征圧（治療）に関するものとさせていただきます。

また特別講演には、本研究会の会長で生みの親でもある磯野前一前千葉大学長にこれまでの本会を振り返り、またこれからのあり方と展望についてお話をいただくこととしました。そのほかにも例年通り、一般演題を公募し、広い分野をカバーできるようにしました。しかし何といたっても研究会の成功は皆様の積極的なディスカッションへの参加に因って来るところが大であります。何卒宜しく願いいたします。

6月の北海道はベストシーズンであります。研究会は一日半の日程ですし、次の日は土曜日ですので是非北海道の味と大自然も満喫していただきたいと存じます。

多数の皆様の出席を心からお待ち申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。